

同友

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

やまがた

11
2016
NOVEMBER

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



第44回 青年経営者全国交流会 in石川

秋の合同企業説明会開催

会社と中小企業の魅力を伝える共同求人

2016年幹部社員研修

計画を立て部下や上司を巻き込んで課題を解決していこう

山形同友会！
未来へ向けて、
新たに！！
より地域に
必要な存在へ

2016年度スローガン

第44回青年経営者全国交流会 in石川



9月15～16日、第44回青年経営者全国交流会 in 石川が、石川県金沢市ホテル日航金沢をメインの会場として開催され、全国から1268名が集い学び合いました。

初日は「企業づくりと青年部活動」「同友会の歴史と理念」「人を生かす経営の実践」「経営指針の実践」「経営者の全人格的成長次代のリーダーとして」「付加価値を高める市場と雇用の創造」「変革と挑戦(創業者)」「事業承継」「見学分科会」の各経営課題からなる15の分科会が開催されました。

その後は懇親会が開かれ、大いに盛り上がりました。

2日目は各分科会報告の後、中同協鋤柄修会長が「同友会で何を学び、どう実践するのか～青年経営者への期待～」と題し特別報告をしました。

鋤柄会長は、「経営者は厳しい所で成長する。同友会のいろんな行事で会員同士がチェックし合い、学び合う。そうして成長した経営者のリーダーシップで、会社は変わってくる。しかしトップが全てではなく、社員がやってくれるから成果が上がる。人事戦略は5年10年、20年を必要とする場合もある。こういうことを同友会で学んでください。やるかやらないかはトップ次第です」と述べました。

また、一つの指標として「1,3,5」の数字を覚えていただきたいと述べました。例として売上にすれば1億・3億・5億、社員とすれば1人・3人・5人、10人・30人・50人。5人から10人にする時、2倍になるのでとても大変だが、トップがやると硬く意思を決め10人になったらこうなると示し社員に協力を求める。その時の目標を設定するには、解りやすい設定をしないと共有化できない。そのための指標であるとしました。



1万時間の法則

同友会の文章は抽象的で美しい文章が並んでいる。しかし深く理解しようとすれば経営者でも難しい。キーワードを抜き出しただけでは社員は育たない。経営者は本や新聞を読んで、自分の会社や社員のレベルに合わせて翻訳し、伝えていかなければならない。また、同友会の行事に参加したら、何を学んだのか、社員の前で60分間話をしてほしいと説きます。

中小企業はプレイングマネージャーが多く、日々忙殺されていると思う。以前、北海道同友会の行事で同じグループだったピアノの先生の意見に、子供が人前で弾けるようになるには1万時間の練習が必要だとする「1万時間の法則」があった。これを経営に当てはめれば、経営者も1万時間の勉強をしなければならない。1日2時間で年間約700時間、1万時間やるのに15～16年かかる。本日の参加は40歳の方々が大半なので、まともに経営が語れるようには50歳過ぎてからになる。時間は大事です、優先順位を決めて自分

で時間を作り、プレーヤーから脱出して次の世代を担えるように早く成長してほしいと激を飛ばしました。

自立する為に軽自動車1台からの起業

続いての記念講演は、ピーインググループCEO 喜多甚一氏が「どん底から100億企業への軌跡 『わかる、できる、する』行動こそすべて!」と題して講演しました。

グループは、物流コンサルの他にガソリンスタンド・タクシー・バス・整備工場・コンピューターソフトウェア開発・デバイス機器の開発等、グループ会社は20社、約140億円の取引で社員は約2400名にのぼります。

喜多社長は高校卒業後、就職するも1年程で辞め父の経営する運送会社に入社、しかし間もなく経営が破たんしました。父の紹介で近所の鶏肉加工卸の会社に行きましたが、給料の額では自立した生活ができないと、その社長の好意もあり取引業者として軽自動車1台から仕事を始めました。しばらくすると仕事にもなれ、2t車で配送するようになっていました。

ある日、鶏肉会社の社長から、福井県で運送業の立ち上げを持ちかけられます。断りきれずに義父に保証人になってもらい、3台のトラックで創業。しかし1年で仕事がなくなってしまい、社員は解雇、義父の手前トラックは売却せず戻り、また鶏肉の仕事に就きます。

トラックの借金が残り何とかしようと副業をさがしましたが、もぐりで始めた運送会社に仕事を出す会社はありませんでした。知人に相談したところ、その知人の下請けということで仕事を紹介され、借金の足しにと引き受けることに。受けた仕事は深夜の配送で、誰もがやりたがらない仕事。ゆえに日に日に荷物が増え、直接市場の荷物も運ぶことになり、気が付けばトラックが十数台にまでなっていました。

経営は信念が大切

父の姿が重なり心情的に抵抗もある中、正式に運送会社としてスタート。その時に物流とは輸送・保管・包装・荷役・流通加工・情報システムの構築であるとアメリカのロジスティック協会で定義されていることを知

り、「これを全てやれたら自分の未来があるかもしれない」と感じ、その6つのジャンルを提供するサービスを始めていきました。

その後も幹部社員が多くの社員を引き連れ退社したり、イノベーションからの分社化をしたりと様々なことに向かい合ってきた中で、「大切なのは経営者の信念、さらにグループが成長できたのは、働いてくれる社員一人ひとりが熱い思いを理解してくれて、泣きながら苦勞しながら、信念を貫こうと頑張った成果がグループを支えているのだと思う」と語りました。

経営者の歩みが会社の宝

最後に自身の体験の中でもっとも大切なこととして、「人は解るとできるつもりになり、できるとやっているつもりになる。僕は商売のことは何にも解りませんでした。やるしかなかった。やるしかないことをやってみた。やってみるとちょっと解るようになる。解るようになると、ちょっとできるようになる。できるようになると、そこではじめてちょっとやる気になってきた。僕自身も解ってできたわけではなく、できるからやってきたわけでもない、やったからできてきた。中小企業には、人・物・金・情報・時間などの経営資源がないものだらけです。しかしないからできない、ないからやらない、解らないからできない、これは言い訳。今、自分の会社でできること、必要だと思うこと、それを技術がなくても人がいなくても、金がなくても知恵があり社員がいます。今持ち合わせているものを駆使して、やってみることから始めてください。一人の経営者が一步一步自らの足で歩んできた距離そのものが、全て会社の宝になります」と締めくくりました。



会社と中小企業の魅力を伝える共同求人



10月18日、今年度二回目となる「秋の合同企業説明会」(対象:大学・短大・専門学校)が山形テルサに於いて行われました。全国の大学生の就職内定率が9月には80%を超え、山形県内でも高校における新規学卒者を対象とした求人倍率は2.24倍(8月末)で、平成7年度以降最高となったことが山形労働局より発表されました。企業にとっては一段と厳しい中での合同企業説明会です。

はじめに挨拶に立った玉津共同求人委員長は「これから社会人として旅立つ上で働くとは何だろう、仕事とは何だろうと考えていることと思います。今まで皆さんは両親や地域の方々に支えられ学んできました。中小企業家同友会の会員企業は経営者と社員が共に育ち合い、地域になくてはならない企業をめざしています。この説明会には経営者も参加しています。語り合うことで社員、地域に対する熱い思いを知っていただきたい」と述べました。

続いて、入社二年目の(株)エム・エス・アイ 佐藤花織さんが体験報告しました。父親の影響で「仕事イコール営業」のイメージを持っていた佐藤さんは、営業職で人の役に立てる仕事をしたいと思っていました。そして、「女性が長く働くことができる会社なのか」「どういう人を求めている会社で自分に合っているのか」「会社の考え方を知った上で働きたいと思うか」を判断基準として就職を決めました。現在、分業体系の中で提案活動を行う部署で営業として働いている佐藤さんは「お客様が困っ

ていることを話してくれる関係づくりを構築することが大事。お客様から問い合わせがくると頼られているようでうれしい。お客様に認められることがやりがいにつながっている」と語りました。



その後、各ブースに分かれて学生とじっくりと語り合いました。来場した学生からは「地元の企業を詳しく知ることが出来てよかった」「就職したいという企業と出会えた」「就職活動の自信を持ってないのは自分の基盤がまだ出来ていないことが学べたので、無計画にならずにしっかりと確立していきたい」という声が寄せられました。

今年度が本格的に活動して二年目となる共同求人委員会。2017年春卒業の学生を対象とした共同求人活動には25社が参加。就職情報誌の発行と学校訪問による意見交換を重ねながら春と秋に二回の合同企業説明会を開催し、学生と学校の進路担当者が参加しました。

今、全国的に合同企業説明会へ参加する学生が減少しています。山形でも二回合わせて学生の参加者が35名と減少しました。この結果を受けて委員会では目先の取り組みだけでなく、三年先を見据えた中期的視点を持って取り組むことを参加企業と確認しました。



計画を立て部下や上司を巻き込んで課題を解決していこう



社員共育委員会主催の2016年度幹部社員研修会が7月21日に第1講、9月20日に第2講が行われました。今期は6月の経営指針をつくる会で組織の基本・組織づくりについて阿部社員共育委員長が担当し、それに続く管理の基本を幹部社員研修で行うという構成になったことから経営指針の修了生と受講生が幹部社員と一緒に参加。24社から61名が集いました。また、東京同友会の社員教育委員会の方々も見学に訪れ、会場となった山形ビッグウィング研修室は参加者でいっぱいになりました。

今期は昨年までの企業変革支援プログラム「人を生かす経営の実践」の項目に、「経営理念を実現する過程」も加えて課題を抽出しました。参加者は研修用フォーマットで、事前に経営指針・社員共育の側面から課題を見つけて解決策をある程度導き出した上で第1講に臨みました。

第1講では阿部委員長が「管理の基本と展開」と題して、管理の基本・組織の運営・問題解決の基本・管理のプロセス・育成・リーダーシップ・管理の展開、職務充実について講義しました。

引き続き行われたグループ討論では、抽出してきた各社の課題の明確化を図り根本原因を探りました。その上で解決の手順を見出し、どう行動していくのかを考え合いました。

2ヶ月間の実行期間を経て開催された第2講では、はじめに(株)カーサービス山形 西バイパス店長 関東祥生氏、(株)菊池技建 営業部主任 舟山純一氏、(株)Hair with

Water 店長 高橋哲郎氏が実践を報告しました。

その後のグループ討論では、この間の自社の課題に対する実行推進を報告し合いました。第1講で幹部社員が忙しさを理由に、短期的な課題には着手できるが中長期的な重要課題に着手できずにいることが浮き彫りになったことから、「しっかりと計画を立て、部下や上司を巻き込んで進める」ことをポイントとして討論が進みました。

まとめに立った小林座長は自らの体験を交え「問題解決が上手くいかないのは、部下が動かないせいではない。みんなを巻き込んで実践していくことが大事です。みんなと一緒に取り組む方が効果はある」とまとめました。



参加者からは「日報の重要性。情報の重要な部分を聞きだし、先行管理を大切にしていきたい。店舗としての組織づくり、仕組をつくり、PDCAサイクルのC・Aを意識していきます」「自分の立ち位置を認識し、メンバーと共有を図り、まずは動いてみる。見つけた課題を見極め、どんな対策・行動が必要かを考える。周囲の社員と経営者にきちんと伝え、理解してもらおう。この三つを実践し、課題解決に取り組みたいと思います」という感想が寄せられました。

今回の研修をきっかけに各社が継続して、課題解決に導いていくことが期待されます。



第13回経営研究集会のお知らせ

2016年11月22日(火) 13:30~20:45

会場:ホテルメトロポリタン山形 山形市香澄町1丁目1-1

■ 実行委員長挨拶

第13回経営研究集会実行委員長 斎藤 源

平素より、同友会活動に深いご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
ございます。

さて、11月22日(火)にホテルメトロポリタン山形にて、第13回経営研究集会が開催されます。今回のテーマは「新しい仕事づくり」です。人口減少によるマーケットの縮小、驚異のスピードで進む技術革新など、取り巻く環境は激変しています。そういった中で我々中小企業は、「今まで通り同じように同じ事業をやっていくこと」が難しいと実感されているのではないのでしょうか。では今後何に取り組むのか、一つの答えが「みんなで取り組む新しい仕事づくり」ではないのでしょうか。今回の経営研究集会では、「新しい仕事づくり」について参加者全員で考え、「新しい仕事づくり」に挑戦するきっかけとしたいと考えています。

基調講演の徳武産業(株) 十河(そごう)会長からは、まさに苦勞しながらも自社ブランドとなる介護シューズを開発し、新しいマーケットを切り拓いたお話しをしていただきます。ベストセラーシリーズ「日本で一番大切にしたい会社」で特別賞を受賞した同社は、事業を通して社会や地域の問題解決に取り組んでいます。ただシューズを売るだけでなく、歩ける喜びや靴を履ける喜びを提供していることがわかります。介護シューズ利用者から、毎日何十通と届く「感謝の手紙」には、様々な感動のストーリーが紡がれています。

また、今回も3つの分科会が開催されますが、各界で活躍されている方々に報告者としてお越しいただき、新たな構成で臨みます。第1分科会では東京同友会の(株)木村工業 木村社長から「同友会活動の実践を通じた企業づくり」をテーマにご報告をいただきます。第2分科会では、東北芸術工科大学の三浦教授から「エネルギーシフトでの仕事づくり!」についてご報告いただき、なぜエネルギーシフトが仕事づくりにつながるのかを考えていきます。第3分科会では千葉 I T 経営センターの野村代表理事より「I T 活用を上手になりましょう!」のテーマでご報告いただき、「攻めの I T 投資」で成果を上げた先進企業の取組事例に学びます。そして、各分科会の報告の後にはグループ討論を行い、さらに理解を深めて実践につなげていきます。

「何かやらなきゃ・・・」、「今のままじゃマズイかな・・・」そんな危機感が少しでもあるならば、まずは是非この経営研究集会にご参加下さい。そして参加者全員で我々中小企業の未来と新しい仕事づくりについて考えましょう。

※お申し込みはe.doyuもしくは申込チラシにてお願いいたします。



11・12月例会の ご案内

- ・どの支部の例会にも参加できます。
- ・月に一度は参加しましょう。

山形支部

2016大忘年会!

2016.12.12(月) 18:45~21:00

場所: 中華料理 桂林
山形市下条町2-2-7 ☎023-644-2776

会費: 5,000円

皆さん、同友会を使い切っていますか!

今回は山形支部の会員のお店であります「中華料理 桂林」さんを使い切つて、12月例会「2016大忘年会!」を開催します。今年1年が会員皆様にとってどんな1年だったのか、桂林さんの中華料理を頂きながら、会員同士の交流をさらに深めていきたいと考えています。また、12月は仕事、家庭など何かと多用の時期でもあり、クリスマスも意識して会員同士の1,000円程度のプレゼント交換会も企画しています。師走となり余裕がなくなるこの時期に、ちょっと一息ついて有意義な忘年会を開催します。ぜひスケジュール調整を頂き、ご参加頂けますようお願い申し上げます。

寒河江支部

忘年会

2016.12.7(水) 19:00~21:00

場所: 王様の焼肉くらぬま
中山町長崎103 ☎023-662-3339
※詳細は追ってお知らせいたします。

さくらんぼ支部

会員オリエンテーション~同友会を知る例会~

2016.11.24(木) 18:30~20:30

場所: タントクルセンター
東根市中央一丁目5-1 ☎0237-43-1155

報告者: 齊加商店 代表 齊加義三氏

忘年会

2016.12.2(金)

場所: 竈煙 心月
東根市さくらんぼ駅前二丁目13番7号 ☎0237-53-0444
※詳細は追ってお知らせいたします。

置賜支部

※決まり次第お知らせいたします。

庄内支部

忘年会

2016.12.15(木)

場所: 愉海亭 みやじま
鶴岡市湯野浜1-6-4 ☎0235-75-2311
※詳細は追ってお知らせいたします。

新庄最上支部

「夢を現実にする目標の立て方」&忘年会

2016.12.6(火) 18:30~

場所: 蕎麦ワークス 葱房厨
新庄市大手町2-28 ☎0233-23-3120

講師: (株)さくら野コーポレーション 代表取締役 高橋進一氏
※詳細は追ってお知らせいたします。

企業変革支援プログラム STEP 1

11月・12月 e.doyu 登録強化・普及月間

企業変革支援プログラムSTEP 1は企業の成長発展を図るものさしとして使えるようにまとめたものです。セルフ・アセスメント(自己診断)という形式で、自社の経営課題をあきらかにすることを大事にしています。

自己診断した自社のデータを「e.doyu」に登録すると、全国の会員のみなさんが登録したデータとの対比や、自社の経年変化をグラフでみることができます。

ぜひ、自社の立ち位置を確認して、企業変革に活用しましょう。



企業変革支援プログラムSTEP 1
1,000円

e.doyuに登録しよう

ステップ 1 を使ってセルフチェックする

e.doyu にログインし自社のデータを入力する

診断プログラムに回答する

すべての回答が終わったら
「下書き保存をする」「本登録する」「〇〇年の回答として登録する」のいずれかを選択する。

第6回理事会報告

◆日時:2016年10月12日(水)午後3時~午後5時15分 ◆会場:山形ビッグウイング ◆議長:後藤副代表理事
◆出席者(敬称略):西塔、菅原、後藤、越前屋、菊池、阿部(和)、阿部(秀)、伊藤、庄司、佐藤(知)、武内、赤塚、小川、斎藤、事務局矢作、高橋

■開会挨拶(西塔代表理事)

西塔代表理事が「今年度も半分が終わり一番の問題は会員増強で、今日の主な討議になります。年度初めに決めた方針を理事が先頭となって達成する。自分が決めた目標は達成するという事で何かあれば遠慮なく発言していただきたい」と述べました。

■経営体験報告

●報告:ソーラーワールド(株) 代表取締役 武内賢二氏(2010年入会)
*11月報告者 阿部敦氏

■報告事項

- 1)第44回青年経営者全国交流会 9/15~16 金沢 2名
見学分科会に参加。印刷もたくさんの種類がある。日本では使わない機械でもミャンマーでは有効活用できる。機械や地球全体での仕事のあり方を考えるところまで。我々の物流もその業種業界が違うと全くあり方が違い、考える契機になった。全体会では私と同じテーマの運ばせない物流をするピーニングの喜多社長が講演。トラック1台から起業し、社長の人間性に皆さんついてきたと実感できるお話でした。実態に則した取り組みの中から「これでもいいのか」を問いかける力と視点を変える力で企業を伸ばしていた。(菅原代表理事)
- 2)幹部社員研修
第2講が終わりました。各企業課題をもって参加したので、差が出ます。課題解決型の研修は各社の課題解決の一助となればよいという設定で、その場で課題解決まで至らなくても各社で継続し、何かしらの課題解決に導いてくれればと思います。どう精度をあげていくかを社員共済委員会の中で話し合いながら継続していきたい。(阿部理事)
- 3)山形大学低学年インターンシップ 19社34名受入
大学の講義は(株)サニックスの佐藤社長が担当した。成果報告会では「中小企業は下請・依存型」「いつも経営状況は厳しい」というイメージを持っていた学生が、インターンシップを通して「中小企業によって社会生活が成り立つ」「中小企業は地域を大切にしている」「一人一人がやりがいを持って支えている」「仕事とは誰かの役に立つこと」「働くことは社会に何かを残すこと」と発表し、変化が伺えた。また10月からこの取り組みが文科省のホームページで公開されます。(後藤副代表理事)
- 4)第21期経営指針をつくる会
8月20日に発表会を迎え、第21期経営指針をつくる会が終了しました。今期の課題としては本当に経営者として後継するのかということです。そこが明確でないと決意が薄く、本当の真の部分に弱さが出る傾向がありました。もう1点は助言者のアドバイスです。本質を見極める為にも一度助言者の意思統一を図る必要を感じました。次回に向けて、しっかり準備をして進めていきたい。(菊池理事)
- 5)2016年度9月度月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 2名入会 5名退会 10月12日現在425名

■討議事項

議題1:緊急時の体制について

西塔代表理事より緊急時の体制として、他県が被災した場合には中同協の対策本部の立上げに準ずる形で対応すること、義捐金は理事会で決めること、次に山形同友会が被災した場合の対策本部長の順位、安否確認の権限、連絡手段、事務局が被災した場合の臨時事務局設置に関する提案があり承認されました。また、緊急時の会員連絡網は各支部にて作成していただくことが決まりました。

議題2:組織強化と増強について

菅原代表理事より会員数の現状報告がありました。その上で強の活動として「同友会活動を理解していただくため、活動を見える化した同友会パンフレットを企業訪問で活用すること」「新会員オリエンテーションの取り組みでは、各支部での開催とリストをもとにした参加呼びかけにより受講者が増えており、参加呼びかけを継続すること」の協力依頼がありました。

その後、山形県の人口と生産年齢人口・事業所数の減少・新卒の離職率・会員の会歴と年代と企業規模分布について確認をし、増強の意義について議論しました。そして菅原代表理事が「増強の必要を確認できたと思う。事業所数・人口数の減少は市場縮小とイコール。同友会運動は持続可能な地域づくりと企業づくりを念頭においている。立教大学の山口教授は危機感がないと指摘する。ぬるま湯の状態が来年あたりから変わるかもしれない。先の情報をしっかりと読む力を持って、これでいいのかと問いかけるのは同友会しかない。同友会が果たすべき役割として危機感を持ってもらうのが強の活動。我々が手を携えなければこの地域がなくなるという認識が醸成されないと我々の仕事がなくなる。

雇用・人が輝く組織体制をつくるための機能が同友会には様々ある。その運動を継続することが意義になる。皆さんが情報として発信することで、いろんな切り口で伝わっていく。ぜひ、10月例会・経営研究集會にゲストの方をお誘いください」と訴えました。

議題3:第13回経営研究集會について

斎藤理事が10月12日現在47名という参加申込状況を説明。10月20日の第1次集約で115名、10月31日の第2次集約で184名、11月11日の最終集約で230名という目安で取り組んでいくこと。基調講演も分科会もそれぞれ素晴らしい内容で「必ず将来のきっかけになるような会にしていきたい」と語りました。そして、グループ長研修では今回のスローガン「今の事業であと何年やっていけますか?」をテーマに話し合う。これから先の仕事づくりを考えるにあたり現状認識とマーケットをしっかりと考えた上で当日につなげることが提案され、承認されました。

●グループ長研修

日時:11月8日(火)18:00~21:00 会場:山形ビッグウイング

議題4:2017年新春交流会について

佐藤理事をはじめ支部で開催する新春交流会で、庄内らしさを全面に出したいと抱負を述べた後、スローガン・開催目的・タイムスケジュール・予算・実行委員体制などが提案され承認されました。

●スローガン 「沈潜の風」~内なる力を解き放て、今こそ実践の時!!~

●開催目的

- ①「実践する」を重要課題とし、「継続し続ける企業づくり」のために、同友会の学びが経営に活かされるためにはどのように実践すべきかを学び合う。
- ②社員や地域が幸せになるために、自社の現状認識を明確にし、自社の強みを再考するとともに、市場の創造と差別化につなげる。
- ③初の支部主管となる全県行事の開催を通じて、支部内の活性化につなげる絶好の機会とし、参加者が庄内の風土や良さを改めて認識していただくとともに、今後の他支部開催へ

■その他

1)今後の行事予定

山形県信用保証協会と意見交換会	10月14日(金)13:30~15:30	同友会事務局	西塔秀幸、越前屋忍出席
新入社員フォローアップ研修	10月17日(月)9:00	山形県産業創造支援センター	
合同企業説明会	10月18日(火)11:00	山形テルサ	
金融庁の業務説明会	10月20日(木)13:15~14:15	山形財務事務所	西塔秀幸、齋藤志直、越前屋忍、斎藤源出席
北海道東北ブロック事務局長会議	10月21日(金)~22日(土)	函館	矢作聖子出席
(公助)産業雇用安定センター山形事務所主催「経済団体等情報交換会議」	10月27日(火)13:00~15:30	山形グランドホテル	西塔秀幸出席
中同協・政策委員会、理事・条別推進本部合同会議	11月9日(水)~10日(木)	東京	
中同協・第2回幹事会	11月11日(金)	東京	西塔秀幸出席
山形財務局との意見交換会	11月11日(金)13:30~15:30	同友会事務局	菅原茂秋出席
第5回人を生かす経営全国交流会	11月17日(木)~18日(金)	千葉	阿部和、佐藤啓、小川大輔、西塔秀幸、菅原茂秋、後藤駿出席
東京同友会4委員会合同会議	11月18日(金)	千葉	阿部和、佐藤啓、小川大輔出席
中同協・共同求人担当事務局研修	11月18日(金)	千葉	後藤駿出席
e.doyu担当事務局会議	12月1日(木)	東京	後藤駿出席
中同協・インド・スリランカ視察	12月10日(土)~16日(金)		菅原茂秋出席
全国事務局長会議	12月8日(木)~9日(金)		矢作聖子出席
中同協・第3回幹事会	1月13日(金)~14日(土)		西塔秀幸、菅原茂秋、矢作聖子出席

2)第7回理事会日程

●日時:11月9日(水)午後3時~午後5時

●会場:山形県産業創造支援センター

■開会挨拶(越前屋副代表理事)

新会員紹介

◎高橋 広真氏

（株）高橋型精取締役専務
精密抜型・プレス加工
山形支部

◎高嶋 俊幸氏

合同会社 高嶋不動産鑑定事務所
代表社員
山形支部

同友やまがた11月号(2016年11月1日発行/通巻284号)

From Editor



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp